



梅島小だより

親と子のかかわりを大切に

副校長 鯉沼 哲

いよいよ7月を迎えますが、まだ梅雨空が続いているようです。さわやかな青空が待ち遠しいかぎりです。学校では、プールが始まり梅雨の晴れ間では、子どもたちの元気な歓声が響いています。

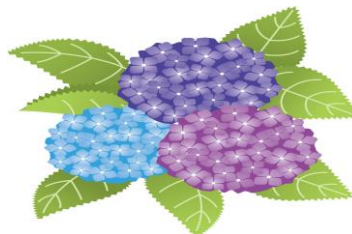
さて、子育てをしていく上で、親は子どもとのかかわり方をいろいろと悩み、考えています。私も、二人の娘をもつ親として、上手にかかわってることができたか疑問に思うこともあります。では、どのように子どもとかわっていけばよいのでしょうか。子育てに関することわざに次のような言葉があります。

『赤子には肌を離すな』

『幼児には手を離すな』

『子どもには目を離すな』

『若者には心を離すな』



子どもが成長する段階で、親子のかかわり方を変えていくことが大事であるという意味の言葉です。子どもが小さい時には、スキンシップや直接手を取って教えていくということが大切で、子どもが大きくなるにつれてだんだんと親が支援の側に立って励ましたり、見守ったりしながら自立を助けていくことが大切なのだと思います。成長の著しい小学生時代の親子のかかわり方は、いろいろな要素が関連し合って難しい時期であると思います。また、一口に小学生といっても、1年生と6年生とでは随分と違いますし、子どもによっても成長の度合いに差があります。しかし、親子の良いかかわりをもつためには、親としていつも「子どもが見えている。」ことが前提条件として必要だと思います。しかし、私もそうでしたが、意外と「子どもを見ているが、見えていない」ということがあるように思います。本当の子どもの姿や気持ち、心というものをしっかりと見抜いていないと、親の言っていることが子どもの心に上手く受け入れられなくなってしまいます。ぜひ、普段から子どもとよいコミュニケーションを図りながら、「今、どんなことに興味・関心があるのか。」「何に力を入れて頑張っているのか。」「どんな遊びに夢中になっているのか。」「友だちには誰がいるのか。」「どんなことに悩みをもっているのか。」等々、当たり前の子どもの実態をしっかりとつかんでおくことが大切だと思います。その上に立って、どのように親の思いを働きかけていったらよいかを考えていくと、きっと心に寄り添った親子関係が築けるのではないのでしょうか。

夏休みまで、あとわずかとなりました。今月も子どもたちが元気に活動し、充実した生活が送れるようにご協力をお願いいたします。